

宮仕勉先生を偲んで

山下敬郎（東京工業大学名誉教授）

先生がアレキサンダー・フォン・フンボルト財団研究員として滞在されていたドイツケルン大学から向井利夫研究室の助手として戻られたのは、私が向井研の修士課程2年生の夏だった。私は先生の11年後輩になる。お話を伺っているとご趣味が釣りとのことで、釣りに熱中していた私とすっかり意気投合した。当時の私は溪流釣りにはまっており、先生を誘って、仙台近郊の溪流にご一緒した。広瀬川、名取川、七北田川、吉田川、そして阿武隈川支流の丸森町まで足を伸ばした。朝早く、先生に車で迎えに来てもらい、夜、帰宅。時には先生宅でご馳走になったこともあった。溪流釣りは歩きながらの釣りで、先生がだんだんと体力的につらくなってきてから海釣りにシフトしていった。松島湾のハゼ釣り、志津川方面のアイナメ、カレイ、海たなご釣りなど懐かしいが、これらの釣り場は東日本大震災の津波被害を受けた地域であり、悲しみも大きい。

私は1978年に博士課程修了後、徳島大学工学部応用化学科の増村光雄研究室の助手となった。増村先生は理学部化学科の藤瀬研究室のご出身で、野副先生のこともよくご存知であった。徳島大学に就職して3年後、アメリカハーバード大学 W. von E. Doering 教授の博士研究員として留学する機会を得た。Doering 教授は宮仕先生が博士研究員をされていたエール大学の J. A. Berson 教授の博士論文の指導者で、先生の推薦もあって留学がかなった。Doering 教授が宮仕先生のご研究を化学の本質をよくとらえていると高く評価されていたのが強く印象に残っている。Doering 研究室で、私は熱によるビニルシクロプロパン-シクロペンテン転位反応機構に関する研究を行なったが、宮仕先生が関心を持たれていた協奏反応か段階反応を明らかにする基礎的な研究であった。1年間のみの留学であったが、この経験は後の研究活動を進める上で大いに役立った。

徳島大学に帰任してから2年後の1984年に向井研究室の助手となり仙台に戻った。当時、宮仕先生は新しく開設された理学部附属光エネルギー化学実験施設の助教授をされていた。この実験施設の開設には私が博士論文としたカゴ型化合物による光エネルギー貯蔵の研究が少しは貢献しており、向井研究室に

助手として呼ばれた一因と考えている。助手となった向井研での最初の年に、後に宮仕研のスタッフとして活躍する M1 の鈴木孝紀君（現、北海道大学教授）、4 年生の池田浩君（現、大阪府立大学教授）など優秀な学生さんが私の研究グループに配属された。宮仕先生の光エネルギー化学実験施設と化学科の建物は幾分か離れていたが、向井研のスタッフとして頻繁にお会いしていた。夜の飲み会や海釣りにも度々ご一緒させて頂いた。

向井先生は私が着任してから 3 年後にご退官となり、後任に宮仕先生がつかれた。それから約 2 年間、私は宮仕研の助手としてお世話になった。研究では鈴木孝紀君が有機電導体の電子受容体の開発研究を精力的に進めてくれた。彼は博士の学位を大学院 4 年間で短期取得している。当時、有機電導体の研究は井口洋夫先生が所長をされていた岡崎市の分子科学研究所（分子研）で活発に行なわれていた。私の研究分野の関係と宮仕先生が分子研で客員助教授を務められていたご縁もあり、分子研の附属施設である化学試料室の助教授として 1989 年 1 月に移ることになった。

研究会などで宮仕先生が分子研においでになった際には飲み会などで楽しいお話を聞かせて頂いた。私は分子研で 11 年間、有機半導体を主とした研究三昧の生活をして過ごした。2000 年に東京工業大学大学院総合理工学研究科物質電子化学専攻に移るが、その際も宮仕先生とのご縁がある。宮仕研出身の昆野昭則君（現、静岡大学教授）が物質電子化学専攻の淵上寿雄研究室の助手であった。私が東工大に移った時には既に静岡大に転出されていたが、有機電気化学がご専門の淵上先生は宮仕先生のことをよくご存知であった。東工大での私の研究は有機半導体の基礎研究からシフトして、有機 EL、電界効果トランジスター、有機太陽電池などの有機エレクトロニクス of 物質開発が中心となった。博士課程での光エネルギーの貯蔵研究から応用研究に関心があつたが、基礎になるのは宮仕先生が研究をすすめられた電子移動反応の研究にある。宮仕研の後輩である昆野君は静岡大学で色素増感太陽電池の先駆的研究を、池田君は大阪府立大学にて有機電子移動反応の基礎から応用研究をさらに押し進めている。仙台には学会や研究会で出かけ、宮仕先生にお会いする機会も度々あった。青葉山ゴルフ場で開催されていた向井杯ゴルフコンペには何度か参加する機会があつたが、ゴルフをされない先生に幹事としてお世話して頂いた。

こうして宮仕先生の思い出を書いていくと、先生がいかにか私にとって大切な人であったかが分かる。研究活動では様々なサポートを頂き、私的には釣りと

飲み会などで楽しい時を過ごさせて頂いた。ご退官後、夏には奥様と北海道で過ごされ、釣果のヤマメなどの写真を送って頂いたこともある。私が 2015 年に退官後、先生とのんびりと船釣りをご一緒することが夢であったが、実現出来なかったのが心残りである。

先生は独創性高い研究に取り組み、生活を楽しみ、まさに私の人生の師というべき人でした。本当にありがとうございました。先生のご冥福を心よりお祈りいたします。